

重要文化的景観 エリア視察報告

「まちの変化」に
どう向きあえばよいのか！

《河川の様子はどう？》

●霜降大川/ナカズシ… 3月に浚渫工事を実施したので、この場所に多かったササバモやヤナギモは姿を消し、川底が見えるきれいな状態です。川の中にお地蔵さんがおられるナカズシ河川は、先ごろの川掃除で黒く澱んだ藻が除去されて以前のような透明な河川に戻りつつあります。湧水河川に田んぼの汚水が流れ込むのがはっきりわかります。



ナカズシ川



川中地蔵さん



正傳寺亀の池

●正傳寺亀の池… お寺の周辺は豊富な湧水エリアです。たくさんいた美しいカネヒラやオイカワの姿が見当たらないのが残念です。代わりにこの地域にいない種類の魚がいるので、その姿を確認。小池川は、湧水量と水温差によって、生育する藻の種類の違いがはっきりとわかります。

●中島内湖… 中島内湖は侵略的外来種のおオフサモが無くなり、かつての人気スポットであった三五郎さんの船着き場も人が訪れることもなさそうで、ひっそりと静かな水辺景観が広がっています。あの大変なおオフサモ除去作業が思い出され“夏草や兵どもが夢の跡”のような…。

また気になるのが、以前は近寄ることもできなかった北側の内湖（ガマ）に家屋が建てられ、庭に続く内湖が埋められている様子。どこまでが個人の所有地なのか？私たちが知る由もないところで、変化が起きています。



一級河川起点付近

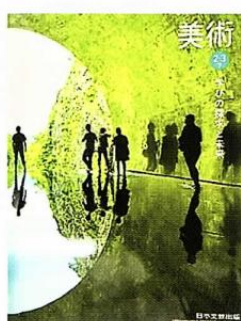


内湖ガマ



中島内湖

環境を デザイン



美術の教科書で紹介

中学校美術 2・3 下 学びの探求と未来
(令和7年度版 日本文京出版)

■小さなスペースですが、「水を大切に自然と共生する文化が根づいている」(本文抜粋)として事例紹介されました。

社会や道徳の教科書ではなく、美術の教科書で未来のまちづくりを考えデザインする子供たちに大切な指針として紹介されているところが驚きです。私たち住民も、こういった視点・考え方を中学生が学んで成長していくことを理解し、これからの地域の保全や継承、まちづくりを進めていくことが必要ではないかと思えます。

住み続けられるまちづくり

「表現のヒント」
暮らしやすい町は、
どんな環境だろう

高島市 針江・霜降地区
〔滋賀県〕



■5月17日、今年も湧水が流れる水系の把握、その水質や生態状況、豪雨時の防災の観点から要注意ポイントの確認を行いました。特に今年は、空家や空地の発生状況、事業開発地について、詳しく状況を視察しました。



大川の水、大丈夫？



◀◀◀ 針江浜で《侵略的外来種》の「オオバナミズキンバイ」が大繁殖！針江浜南側で、見渡す限りオオバナミズキンバイが開花（7月）。毎年、国際ボランティア学生協（IVUSA）などが駆除作業をされています。▶▶▶



《街並みの様子はどう？》

※空地・事業開発地等の状況について

●霜降区内の変化は… 霜降地区の旧来の商店通りは、空家や空地が増えていましたが、最近次々とアパートや新築家屋が出来るなど、新たな動きが出ています。川島酒造さん東隣の古い家屋（元・飴屋さん）は長らく空家でしたが、解体され駐車場になるとのことです。霜降十字路東北の店舗跡には、「近江楽泉堂」という看板が付き開店を待つばかりとの情報。霜降会議所西隣は、新しい家屋がほぼ出来上り、カバタも再生されて地域に供用されるとのことです。

●針江区内の変化は… 針江区内は、見た目の変化は少ないようですが、空家がどんどん増えています。また、空家ではなくても、通常は使用されていない建物が多くなり、昔の繊維工場や農機具倉庫も区民以外の方が他事業に転用されている事例もあります。テレビでも有名になった旧・三五郎さん家は、記念館・資料館として再生される計画が進められています。今回持ち主にお話ししカバタなど家屋内も拝見させていただきました。立派なコイはアライグマ（侵略的外来種）に喰われて全滅とのこと。



旧 三五郎さん家のカバタ



★湧水の豊富な針江・霜降は、観光や事業用地としても人気が出ています。空家となって区民にはわからないまま、解体や売却、開発が進められている事例もあります。防災・排水・交通対策・観光客の流入などについて、持主や移住者、事業者とのコミュニケーションが重要な課題となっています。

報告書ができました！

川の健康状態が見えてくる

「河川調査関係事業報告書」



●報告書では、はじめに重要文化的景観「高島市針江・霜降の水辺景観」について、地域概要（特性を生んだ地形、古代から中世の景観）について簡単に紹介し、各調査内容を掲載しています。

■水質調査

湧水の豊富さと良質であることは、重要文化的景観「針江・霜降の水辺景観」の生命線といえます。調査によって見えてくる問題や課題に対処し、景観価値を高め、住む魅力を高めていければと考えています。令和4年9月より2か月に1回（計17回）11地点で測定した水質調査の結果と分析を掲載。



■水量調査

大川堰（行者場水門）開閉操作による石津川の水位減少問題を受け、昨年6月に2回、水量調査（河川幅、水深、流速等）を関連ポイント4か所で調査を実施。データを掲載しています。現在、この調査をもとに大川・石津川の適正な水位管理を行っています。

■水草調査

昨年9月、エリア内河川6カ所において植生状況の観察、水草の採取と種類の特定、さらに押し葉・標本づくりを実施。日ごろ見慣れている藻類も、安曇川沿岸用水の流入する河川、上流が無く湧水だけの河川など、河川の水質や温度によって植生に違いがあることがわかりました。

